



日蓮上人一代圖會

肆

~波13
59
4





日蓮上人一代圖會卷之四

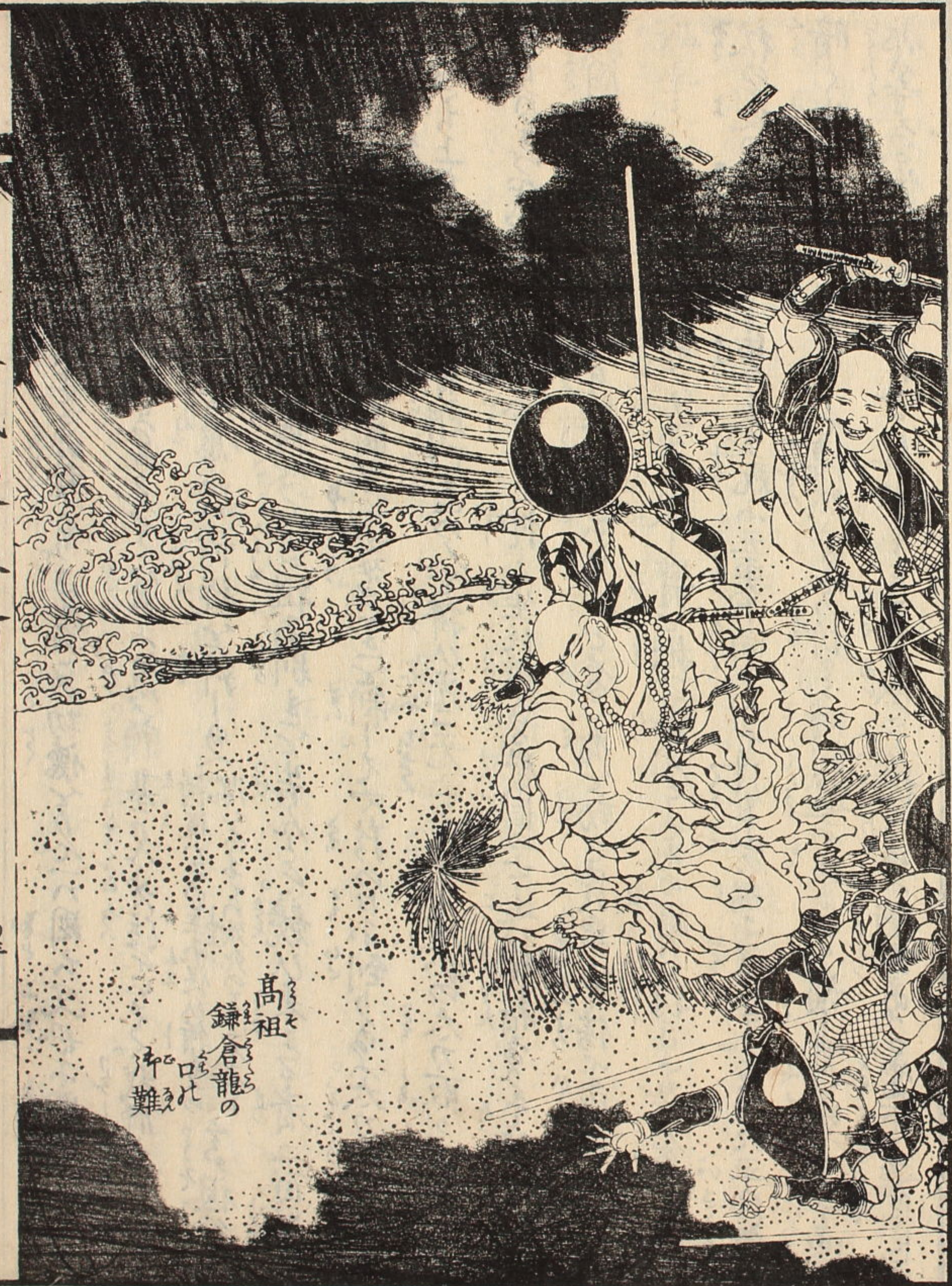
第二十二 高祖擒不就の龍の口は難尋と赦免の事

加とて冬永八年未九月十二日のふふん（すま）既不副元帥の評後決日蓮法師の疆り多死
 天下の罪人たうとて平の頼綱教百人の卒と率て名赦る竹菴とてち圍む祖世止
 とびあひ人馬の音の近づく等一とて南の口と開さ浴桶来りたる今日蓮真骨とて
 妙法お流んと沙と黄金お易るふふ（すま）上（すま）ひらの法と号令とせよ命と法華經お奉り名を
 諸佛の王お流さ何の忍怖と更お喜ぶ面持ありて從容とまのへか同来
 進より強倉殿の台命おより沙門日蓮とて捕人爲吾們と不向ひら尋常お流り出
 よし言の下お石と擲つ跡お続ける住和瀨某目と瞋とてまらひ入受下言祖音とまげ女
 祥とて宣ふとて汝は婦おとてと聴けそと中庸の文おらそと也諸と怨と神お誓ふと
 疑ひお然と天と知と百世必と聖人と候て惑いさう人をあるとて這へ汝もゆると不今日蓮



如來の使あり。今國家の危なり。日蓮が支え持てん。其の敗るべきは日本。柱あり。柱を摧けば家傾く。かゝる自界及逆難。他國侵逼難の玉らん。他國の大元。蒙古國を以て是等國神を擯けり。胡賊の奴とせん。法鏡の殿と毀ち。清者の頭と切し。國危し。今之期不及ん。毒三次の二あり。是より衆生等。怒りて大憎。今之期不及ん。毒吐き上と非る。物のほをせと。法華經第五の卷を擯て。祖が面を撲らる。祖微笑して第五の卷の則勸持品。其の繼文を我と撰奇あり。奇なる。脚勸下あり。かくて衆生等。引きて松葉谷と出づ。白日馬小孫世旗を遂降と閃。四街道を巡り。更不朝故のめりたり。かくてその清鶴。八幡官の社あり。至は祖馬より下里あり。彼如小向ひて告あり。日本第一法華の行者衆生と掛け。法鏡と滅めん。は上微妙の法。いと不説く。什麼人情大菩薩靈心の誓約如何と。是畢り。馬小孫世。彼んく。不貴徳道作る。いと徳より。伝る族の大孫。三用章と

いと狂来。まことと憎むの徳。今日こそかの魚僧が多年の罪血を素て見死。刑不處せ。見物ある。は街の左右。群聚せり。干時。衆が諸人と捨分老。一人はく。祖が馬の侍。来り。手不の正と捧げ。恭を終り。何ん衆生と度せん。為此と若。文と初用。今弘通せん。と。衆人。踏不。衆生と。あ。七。罪と。衆より。是非あり。是這の陋。物あり。供。衆。不。衆。若。祖。の。不。祖。老。祖。深。感。と。掌。取。あ。い。ん。あ。小。胡。麻。の。條。あり。言。祖。説。び。て。受。あり。かく。祖。慈。ま。命。由。四。條。頼。基。不。若。頼。基。大。孫。子。足。才。四。人。洗。あり。時。刻。と。後。三。次。池。来。り。祖。こ。と。ん。あ。ひ。て。日。蓮。今。霄。首。と。刎。ら。る。この。救。年。成。ひ。こと。あり。この。安。婆。世。衆。不。此。と。衆。り。の。船。と。若。鷹。不。斷。ま。鼠。と。あ。ま。指。不。取。る。或。の。思。志。の。あ。外。心。備。の。あ。天。命。を。期。せ。ば。是。て。命。と。喪。ひ。躬。と。没。ま。る。の。大地。の。微。塵。より。多。け。と。法。華。經。の。あ。一。度。も。此。と。供。する。め。と。我。生。涯。負。道。あり。國。土。の。為。不。恩。と。謝。せ。ば。父母。の。為。不。孝。と。竭。き。次。然。る。と



高祖
鎌倉龍の
御口難



頭より法華經小供養する時、疎まらざる功徳ありて一八國云父母小回向。一八國
 子檀越不省かん。と悦びあう。うると宜ふ。と歎頼。基里牙流にいたく。我師本去。不
 ぬ。吾に争う。殿せん。や。愿ふ侍従。と許し。侍従のその。主。不。侍。の。さ。祖。終。と
 會。と。性。あ。の。時。退。傳。使。言。祖。不。別。と。告。んと。競。ひ。未。さ。る。者。二。百。解。人
 置。て。て。ち。後。と。遮。る。怒。固。の。武。士。等。と。制。し。え。ち。移。の。口。不。到。り。あ。の。大。刀。取。脱。不。忍
 拔。て。ち。ち。ら。んと。せ。り。処。不。月。朗。四。邊。の人。と。拂。ひ。无。二。无。示。並。入。と。か。の。太。刀。取。つ。て。不。進。と
 斬。ら。ば。ま。づ。我。と。斬。せ。と。合。掌。し。て。挫。と。坐。伏。侍。る。怒。固。の。士。這。ハ。復。藉。あ。り。そ。ち。除。せ。る。と
 殺。圍。を。除。ん。と。ま。ま。と。月。朗。の。去。ら。ん。や。と。る。ん。死。を。劫。さ。び。衆。卒。傍。へ。告。げ。た。と。月。朗
 破。半。と。ん。死。を。願。ふ。難。入。大。不。忿。激。一。臂。を。擽。て。曳。ん。と。そ。の。一。臂。を。折。さ。し。り。泉。角。す。る。不
 秋。の。夜。の。長。き。あ。る。も。更。さ。ら。ず。既。五。更。不。向。と。て。月。の。獨。不。没。し。り。こ。の。きた。平。沙。忽。地
 暗。く。岸。う。つ。波。の。高。き。う。つ。り。と。凄。然。と。る。の。折。り。時。刻。違。不。後。と。り。頓。と。背。と。刎。へ。と。重。連。が
 那。等。あ。る。依。智。直。重。と。る。の。水。の。と。き。又。と。抜。て。る。祖。の。後。不。衝。ま。あ。る。當。下。遽。然。と。して

復。鳴。動。し。ま。つ。れ。た。か。の。方。不。遂。つ。て。怪。一。の。音。發。ま。る。と。奔。走。く。滿。月。の。こ。し。神。光
 東南より飛來。と。の。光。り。聲。不。辨。り。鐵。槌。ゆ。ま。る。ん。と。ぬ。雷。電。以。上。不。著。と。山海
 一時。不。震。動。し。直。重。と。持。り。大。力。腕。壞。と。る。て。飛。び。救。ま。い。衆。卒。大。不。震。以。練。と。衛。り。と
 忘。ま。て。遠。不。逃。ま。の。祖。不。後。と。願。ひ。の。不。君。令。重。と。不。あ。ま。の。囚。と。一。人。措。て。金。箱
 方。へ。還。さ。る。頓。と。来。ま。し。と。妾。を。奉。て。宣。へ。と。答。う。の。の。の。の。内。儀。倉。あ。る。執。権。の。時。宗。が
 第。不。於。て。怪。し。ま。の。あ。り。る。中。不。一。箇。の。怪。星。空。より。墮。て。その。光。り。繁。微。と。遠。ハ。什。摩
 如何。不。と。眼。と。固。と。定。ま。し。と。看。ま。の。の。の。當。下。虛。空。不。有。あ。つ。て。悲。さ。る。聖。者。と。聖。ふ
 國。の。亡。ぶ。近。き。不。在。り。と。君。は。上。下。の。耳。不。含。困。と。副。元。帥。時。宗。也。大。不。怒。怖。一。救。不。南。條。七。郭
 と。り。月。蓮。法。師。を。救。ま。し。と。青。衫。の。足。達。せ。ら。る。執。事。佐。濃。判。官。入。道。意。と。三。書。と。辨。め。て。抄。不
 持。馬。と。馳。ら。ず。の。時。終。の。日。より。由。件。の。怪。異。と。ま。せ。んと。其。の。使。者。互。不。金。洗。澤。の。深。み。を。以
 逢。と。祖。の。言。と。脱。し。あ。か。の。使。者。の。必。逢。と。地。不。一。帯。の。小。川。あり。と。ま。ま。と。名。け。行。逢。と。ら。ふ
 と。の。ゆ。ら。不。集。會。と。る。四。條。兄。弟。月。朗。及。び。百。千。の。檀。越。の。と。夢。の。ゆ。ら。不。言。を。之。故。在。在。踏。踏。其

神宮祖が終居と憫問せしより由後小波也

附ての本木の明皇天子降りて梅の樹と皇降の梅と秘して今自後彼処小存
せり性との樹の枝どりて救珠小造る小その本中聖の象ありと性首の佛受傳
らざる所依とてと崇教也

かして平頼徳の下とて祖と依は補を今則本間重連(副元帥の書成賜りたる
書みひそく日蓮坊送回依及臨瀾せしむる然れども兩三年後極めて赦免の期ありて
今守りて一若不律のとあつて罪は下小帰せんとなり本間の家人等領地せり
たの書と齋しし使老家人等小對ひていふ奇あるも彼僧の貴むべき怖る。昨成の初
虚空小なるあり殿中發動し玉君慎む蓋罪ありて瀆せりて傍王と宥むるまを
あり。然も休息の言小任せ置とて援助を下と示して預て使者の言小後念も小
火ありて夜人殺すのあり。官吏索むれどもいまだ獲を得法にの者獲るべきと日
蓮が元の所業と官吏とて是ありとて祖小皈依しる者三百八十餘人と捕へてひい

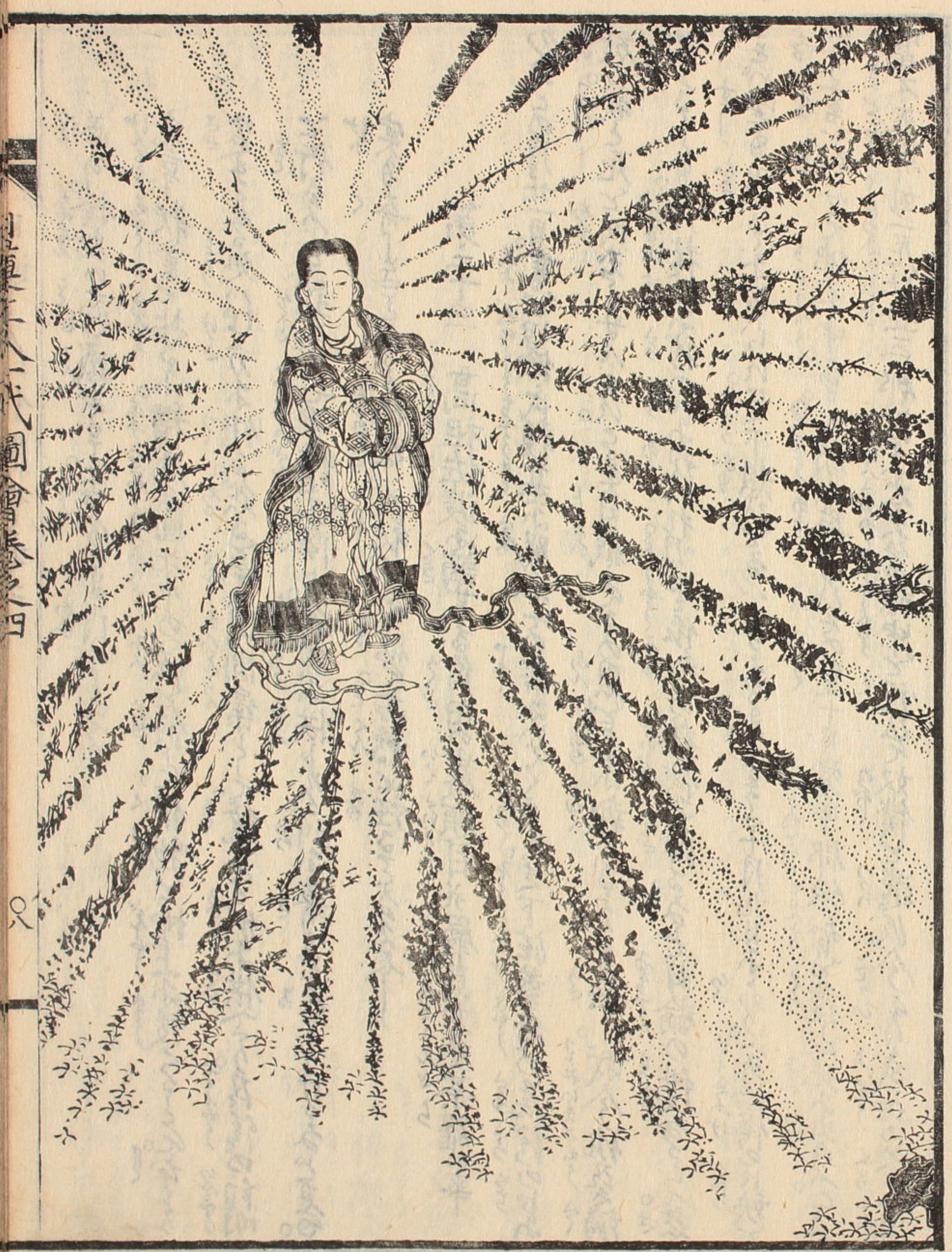
都下と逐拂ふと且不用と畏懼あり。実の言祖と憎める者の計りてかるせしとて法ま
日朗心及び檀越の士は人々を宿命先則奉す。とて捕へて地牢小下り今跡かの地小存
し。松葉が谷の官より被却とて小言祖小亞々の大功の辯論梨自照上人あり但日興日向日
頂日持の縁とて祖の教誡と受て終の口小赴つて胎因梨小溪の窟巷小從ひ執居傳集して
心と怒とし并と持し真と護り言祖啓運ありて嘉善の時とて小嫉つとて宗小傾
去一合離とてくよく一家と保てるといふ日朗の勳績あり

撰者按る小本朝通紀文永元年の條小日蓮再び佐久小竄まるといふその經書小法
宗と禪傍し願學を行徳と悪く。且將軍家と兇咀とて時宗怒つて有日小命ト
蓮とて土獄小下り遂小終日のを小放ておふとて斬んと及蓮とて患へて
法佛の因修脱命と惜まず。舒と救ひ虎と觸ふ已小法と弘むるが為と兼小遇しと
若患小及らんと脱力て時宗深く怒む故小俄小平等と宥め依り小犯すと載れど法
書と攻る小文永八年とて直時宗怒むるといふに鼓合大不怪あり。これと畏れ

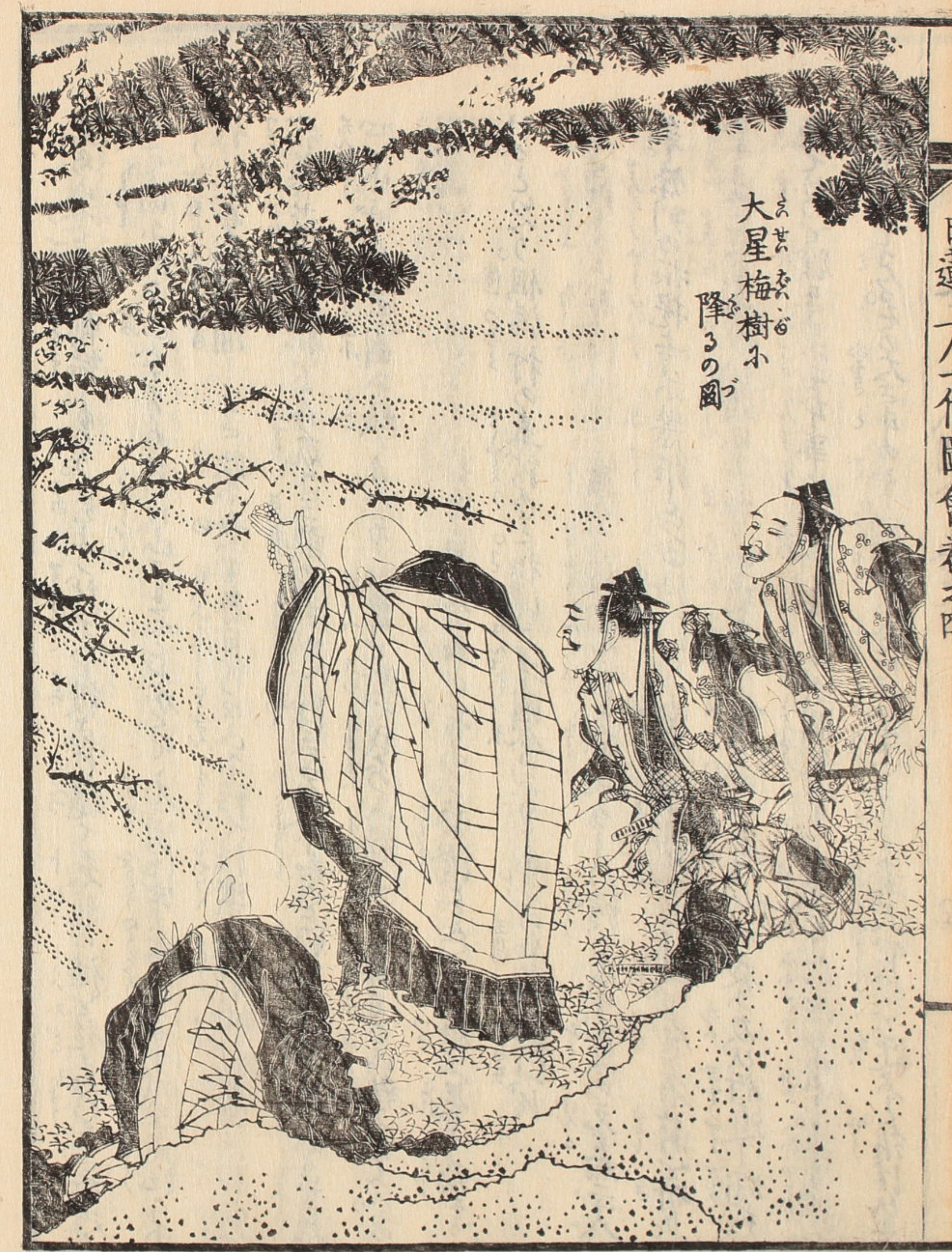
即上も。まゝ諸書不詳之通紀の化老忍らゝの怪と結らざる所ありん
 再びの口の刑罰と行ふこと。まゝの書と本據とあるす。法華經書深の目
 蛇の化か。書と按る。不武義の境深決とる。湖あり。その廻り。十海里。此の天
 蛇住。神武の世より。垂仁の世より。七百萬。大不國土と悦ませり。景行の世に
 及び。いふ。この毒。武烈の世。小湖あり。と云。南山の谷。津村。小在り。多。小兒と
 ひり。欽明の世。十二年。四月。十二日。成の刻より。二十日。小あり。ま。南海。大。津。勝。上。龍
 藏。ひ。勝。夜。の。く。大地。初。初。夜。止。ま。る。小。天。女。雲。上。小。頭。ま。三。人。の。童。ま。左。右。小。侍。り。を
 後。雲。収。り。霞。散。り。て。こ。小。の。あ。と。他。せ。り。こ。別。後。あ。あ。て。天。女。ら。小。降。降。一。あ。辨。財。天。女。の
 應。作。り。て。云。熱。池。移。り。三。弟。三。の。娘。閻。羅。大。王。の。姉。婆。羅。大。天。の。妹。あり。湖水。の。西。移。り。て。云
 美。質。と。て。不。竊。不。感。上。情。緒。不。法。と。天。女。小。之。志。の。深。と。り。天。女。大。不。穢。め。り。不。在。世
 小。群。萌。と。む。む。汝。慈。憐。の。心。あり。悉。く。生。命。と。断。つ。心。深。共。小。異。之。何。ぞ。死。偶。小。好。述。と。る。を
 新。大。不。悔。て。り。我。今。より。教。令。不。任。せ。お。の。命。と。取。と。る。ん。の。仍。あ。れ。世。と。必。て。志。遂

あり。あ。と。天。女。輒。縁。し。り。り。是。より。新。人。と。殺。さ。り。還。て。哀。悲。の。徳。と。結。ら。れ。ま。し。世。と
 立。て。南。小。向。と。い。と。あり。ぬ。新。口。と。ま。ま。と。ぞ。か。て。元。の。小。字。小。老。七。年。城。の。新。法。と。小
 任。大。兼。後。と。痛。し。ま。小。兼。王。毎。日。新。口。小。法。と。法。樂。以。の。新。講。法。と。大。師。小。對。之。向
 我。菩。薩。の。法。放。と。り。既。小。三。熱。の。苦。悩。と。除。三。宿。命。智。と。好。て。舊。徳。の。先。と。好。ま。ま。あ
 心。と。生。ぜん。や。若。國。不。叛。く。の。あ。ふ。育。と。斬。て。我。小。懸。よ。と。ま。昔。月。の。凶。執。小。あ。は。い。あ
 累。賊。と。捨。て。は。海。の。うち。泰。平。あ。ま。ん。と。神。の。若。あり。泰。澄。と。ま。と。人。小。傳。人。是。より。始。ま
 ける。と。り。但。津。村。の。毒。移。り。と。和。漢。三。才。圖。會。小。の。こ。も。その。出。所。の。辨。へ。は
 ま。同。書。小。星。降。り。の。て。唐。の。る。信。傳。と。引。て。妄。証。と。る。ぬ。後。と。る。す。宋。の。元。嘉。祐。二。十。八
 年。條。別。の。振。提。寺。小。慧。紹。と。る。沙。門。あり。密。不。燒。鹿。の。心。あり。人。を。屠。る。を。新。法。を。祈。り。
 東。山。の。石。室。小。棲。む。期。日。小。あり。中。央。小。の。倉。と。同。い。と。座。に。初。夜。小。及。び。行。道。一。燭。が
 執。て。新。と。燃。さ。ま。ま。本。事。品。と。痛。と。新。已。小。洞。然。と。ま。と。痛。舞。行。始。め。の。ゆ。大。衆。感。之
 一。日。ま。あ。と。る。その。大。さ。斗。の。ゆ。煙。中。小。在。て。天。小。上。る。る。者。天。官。報。と。還。不。と。報。は。小

大星梅樹小
降るの圖



大星梅樹小
降るの圖



恙を捨此の志を感ずるに古今とて世に因りてなり
元亨釈書と按る小釋慶圓北平の法を修して供物と壇上小設ぐるに
宮まきる処に下方小作る然るを山園築てて繞る形小供へり及後の印明
と行ふ小と北平の七里壇小降り各園小供下る列小著てを居りけるに
實の奇しきとある已に記しつゝと必て古物と証する者今

第二十三 高祖佐渡小讀むる角田の巖題目并嚴島女曼荼羅の事

かくての月廿一日書に條氏賴基小賜ふその畧小云云云下法華經の爲記の由
於て我と死と同なるせんといふこと自裁しその恩をま小報するより由繼し我今依茲讀
せしむるも月桂已小終のに小祝のれ明星依智の梅樹小降るるに日輪の獲あつらん然
まば世も畏る小思らば下想ひするするあることまに十月九日小あり實格偈のに決と
記し書と悦せ地牢中る日朝小供へりその翌十日愛甲郡依智と書して北小出のへこ小
富木五郎妙二尼比企三郎池上太夫等施中と祝ひて奴僕と遣ひ今宵武刃の之末川

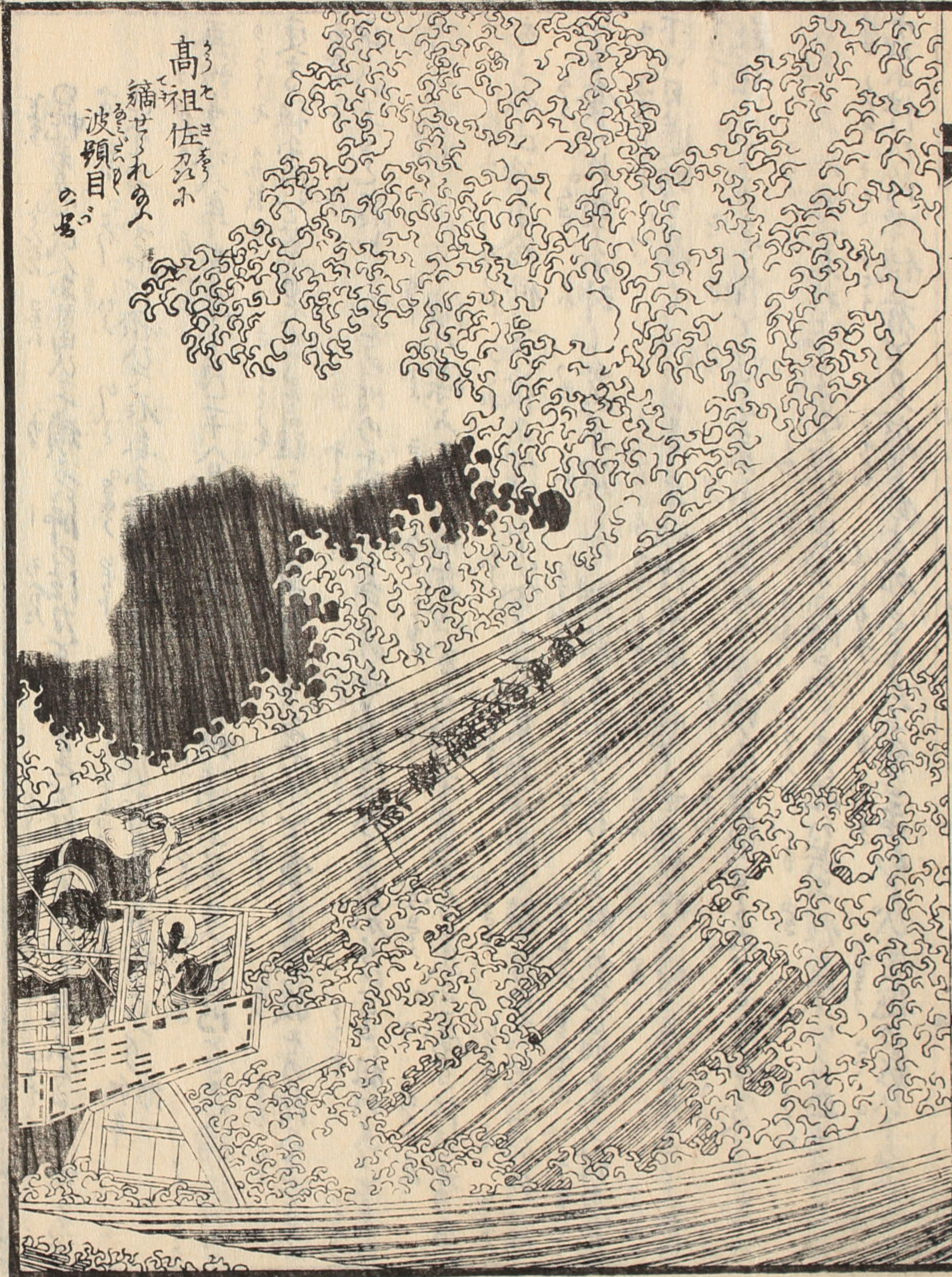
小宿しありその舎を信と都七教侍をその聖形倉小ありあり小新舊の城を去る同時
光その妻の頂を小佛と目と經とを經生とて苦痛小しつゝ小悲び時先小
阿折々言祖杖と杖のて末つて言祖小救ひと案め指侍せんとて清小言祖神を
性ありと踏の傍る社小南まり誓く祈念しあり小祈小驗ありて安と平産とて人
高田共の心と做せり十三日見玉の地小あり見玉時國の家小あり十四日小莊の妻小
到り長谷川の宅と送り日と經る日二十日狐の寺泊小甚あり石川氏小作宇太夫の舌度
出迎へて殺侍せりこ小於て富木五郎等が送るの人吏と帰らるる且富木小言小
まのふその書の畧小云云云の條の如末現在於怨嫉多し况や滅後とて佛教小
依て邪人と記す多國小憑て神福と致まると武人のいへり日蓮極とて之を徒之難小徒小
曰然らば下和則らるる人とはとて夫ふといふも世の親とあり日蓮擯出救度流罪二度
と三世法佛統法の儀式あり日蓮の即不經菩薩今の世之類の故あり人いへり日蓮
路事と恙あり宜くは門法小あり十月二十日とあり

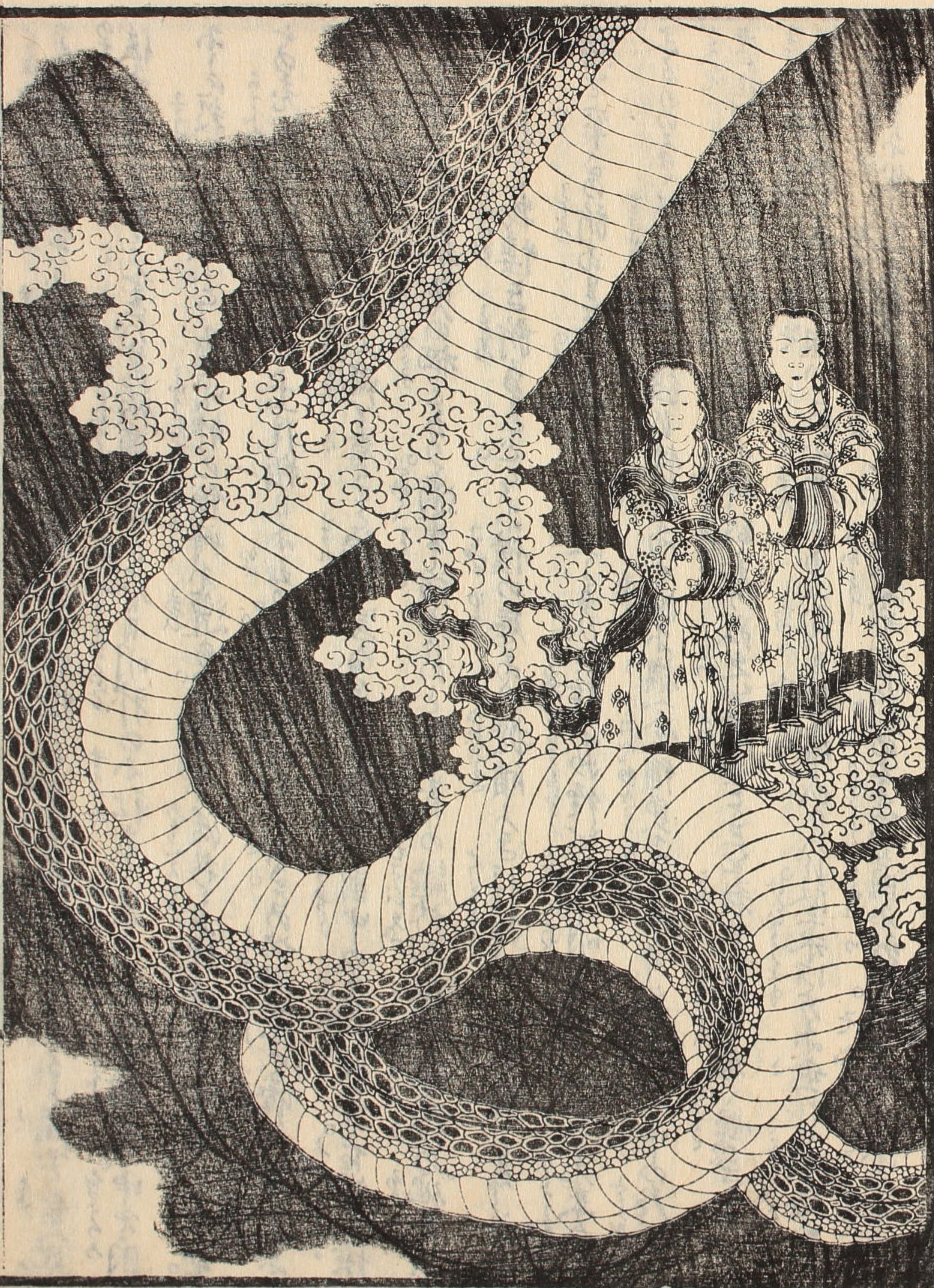
悪くも小貝ノ滞留あり。白廿月船小乗り。既小大降。出るの処。大石同起り。逆浪天に漲る。水主掛り。力と裁せ。はらん。とこれ。潮小推。是。船角田の岸小某。く。小石田の家を去り。遠友法。法を去り。の両士。ま。り。祖と近。せ。む。む。む。と。山小巖あり。祖。奉。祭性。の。い。後。来。の。船。小。と。一。筆。と。深。く。頼。目。と。書。る。角。田。の。巖。頼。目。と。の。い。是。あり。其。の。痕。跡。く。透。り。百。年。未。滅。ま。る。と。り。後。人。災。ひ。と。據。る。の。所。と。ま。す。の。西。士。檀。越。と。り。寺。と。遠。く。妙。光。と。り。二十。八。日。同。収。ま。る。と。既。小。船。小。乗。り。の。ふ。ま。さ。風。伯。大。激。一。波。清。教。文。船。と。揺。初。す。船。政。大。胆。と。清。一。帆。と。揉。ま。ひ。の。程。と。却。一。面。樹。ま。さ。と。船。危。く。去。下。す。祖。諱。小。と。え。船。小。出。り。ひ。ま。る。と。自。我。憫。と。痛。ま。さ。と。已。小。救。遍。小。及。ぶ。と。赤。衣。自。衣。の。二。書。ま。り。扱。れ。勉。め。よ。や。と。船。小。示。以。干。時。風。浪。俄。小。収。ま。る。因。帆。と。揚。げ。航。行。必。小。祖。水。掉。と。執。て。水。面。小。白。ひ。頼。目。と。大。書。る。あ。ん。の。長。死。の。教。十。丈。字。畫。彩。の。象。小。似。り。と。ま。す。後。の。文。字。小。消。す。跡。と。共。小。浮。沉。人。呼。び。波。頼。目。と。私。今。小。存。在。と。未。代。の。奇。事。あ。り。海。神。守。護。の。其。方。り。附。て。の。人。是。より。信。い。ま。る。角。田。小。坐。り。と。た。忽。然。と。一。書。り。の。状。の。と。り。山。の。窟。中。小。七。段。

の靴ありて。民人小苗。ひ。は。頼。目。の。所。の。法。力。と。り。て。ま。ま。と。伏。一。の。い。ん。と。信。ふ。と。祖。信。を。け。山。上。に。小。石。と。拾。ひ。て。石。毎。小。後。の。二。字。と。書。て。投。げ。即。ち。其。所。止。ま。り。と。り。紀。年。再。說。文。永。八。年。辛。未。十。月。二。十。八。日。祖。信。波。至。真。濟。浦。小。某。の。い。の。所。と。ま。す。祖。信。の。力。使。す。祖。小。病。と。屬。り。て。ま。ま。と。祖。と。ま。ま。と。稟。の。ひ。と。あ。く。病。と。食。一。の。後。其。の。所。小。と。遠。く。本。の。寺。と。名。け。り。と。の。村。の。正。面。と。ま。り。の。寺。の。珍。奇。と。い。か。く。と。ま。祖。の。い。ま。と。ま。ま。と。何。方。と。書。と。ま。ま。と。波。の。漂。ふ。岸。と。被。方。此。方。と。割。る。の。今。更。小。屬。を。信。入。者。と。り。知。る。ぬ。山。路。小。冷。僻。と。り。祖。小。諱。く。人。中。あり。と。東。西。と。小。辨。へ。り。一。室。の。只。一。服。と。り。食。ひ。草。小。外。一。書。小。深。ま。て。惘。然。と。ま。ま。と。お。り。と。祖。信。の。前。來。り。什。麼。且。下。日。蓮。坊。と。痛。く。や。と。の。年。未。妙。經。小。服。と。曝。一。世。間。の。碎。と。確。ま。ん。と。ま。ま。と。二。款。の。欲。強。く。い。ま。と。素。懐。と。達。る。小。ふ。ら。い。か。る。邊。境。小。窺。漏。せ。れ。と。ま。ま。と。い。ま。ま。と。と。ま。り。ら。り。此。方。へ。來。れ。と。と。と。と。握。て。曳。き。隨。て。ま。ま。と。祖。の。共。小。信。の。ふ。い。と。無。非。靡。也。此。空。不。伴。ひ。珍。味。佳。者。と。り。七。食。食。應。走。加。と。と。と。と。盛。る。正。と。よ。び。金。匱。の。數。ひ。と。り。世。間。小。



高祖佐乃小
 猶世れ人
 波頭目
 の書





高祖七頭の蛇と伏し

と自ら... 又別に物... 後小舟... 其の老樹... 宿志... 竹小... 吹え... 膝と... ちのり... ちの祖... ちの給... ちの松... ちの...

志也... 傍小... 念彌... 以者... ちのり... 以て... 附... 一ツ... 崇... 神... 其... 其... 其... 其... 其...

建曆上皇の御後承久二年辛巳上皇位及小巡狩のとき従ひてら小来る後上皇の崩るる小遭ひ髪を薙先陵小侍は法の律と阿僧とんその妻ゆまの刺髪千日女と傳法若小念伴と修へ浄土宗小願を願ふかの宗の奥旨と探し偏小若の僧の平然小這回る所へ言祖の来りゆり奉てことと毀辱ままば己日素他宗の修るまこと鑑ある者るま日蓮必しも根人あふは安小他門と排らんや極めて握る事あらん容小性か沙門が景勢と候らん一時との海東小来り言祖の言容と入奉る小徳容妙相笑く所小異あり候とそと心ひり直小福して法義と物ふ言祖渠と祝ふ小これまこと者あふぬと素一精く妙法の首とと諭は阿佛風若の感志る不々速小皈伏は念伴と垂て流屬とある然ことの中序く言祖と憎まざる者あく適庵と過り潜小て飲食と飲るの或ひ主人小勸當せしれ所領と放し父母小淋まこと兄弟小捨らる故小釈迦の去り候と我の心祝する益決人の疾妬小罹り師のおん死小及ぶべと深く思ひ候と素あつとと被さるるを作し毎夜人定刻のすおおふは夫婦潜小鯨と誓ひ或ひの懐小

袖小蔽ひ山中の深雪と霜より言祖小憤り奉つると言雨風雪の夜と心も悔ると言言うば言祖大小喜ひひ阿佛房丈持とまことまさせ命の如く壞の如く圓らざるは我考妣父母死くの者子小胸中小托しとて線の小及まんこの夫婦と貴とあり

第二十四 佐別塚原問答并 重連小乱と生口あふ事

かくてその年ゆ言れ文永九年壬申高祖五十一あるま然る小佐原の園花の輩いとく言祖と憎むの餘を日夜相會しと新保塚原の小推考せ直小殺さん小如べとて既小言父室小迫まその言候と候ふ言祖の言候と小聖一兩路と防の准候あけまの言言身小纏ひ從容とて妙法と候補の言来小唱顯自若くと嚴密威容車雨くと重連ありの故小かの流胸とらと心小忍まてとづれ難く空まくと去て歸ると小生偷房印を房道道房唯阿若の答との言の頑學小ん阿堂の者控多し因て道儀教百人準亦言房小聚會の殺さんとて殺し止む邑皇本問六那左衛門とまこと吹て夫小孩と生偷房以下と戒りてらすこの信經を悔ふ言くは國君從度とあり況やまこと殺せると言これと返つ

庵うびその志と逐人と欲ふ唯論辨とてことと刺せ羸輪の故主義の守らふも
 威成て実小なるの渠に入儀の教人隊と領ち順と逐るべしとて事の渠より
 辨ありとも争致すこと得ん勿也座せん必せりその時渠より衣と刺す十分小社と共
 匍匐多て救と乞んまき快くもとと衆議一決をて目と定め者ん紙後まて後法興の
 團入と事と傳人參會せんこと假せば法宗の毫一時の英も微服閑りてこと小社
 成百人悉く小正月十六日新保の條条小聚まること儀の如く降ふ也なり。當下邑を平向
 氏以牙のまき此処小出非常と事め福後と極く法十方より来る信儀或の洋土或の戒
 律或の真言あるひの禪との家との書と推れえまて披草抄録の書雜信小負せ奴僕小推
 のせ所使りと事と来る実小前代未聞の奇觀目と扱ひ耳と教つる祖と事と看ありて
 寛裕温柔少の初せば須弥大山の如くあり。諸寺の檀紙の後方小在て後て鬼小若
 神小祈り我和尚とて亂歌と唱へ名卷と一時小奉りめあへて祈禱助力眼と漲り齒と切
 して圍ひ繞る千時順逆の座定まら一僧問と奉る不及び言祖の答釋礙滞るくよりや

雜向雜類とも逐二國とも是非と辨まるる二語小返さるる問の如く林示む小衆信
 順次多獨の問と折さるる樂法小等一利刀と刃て熟しる凡と裁小異るるはま
 是暴風狂の竹と偃が如くありま有識の老い還る身と企及をると悟まてと愚極慢
 ある者の理と非小曲ん羸んとまきと度と失ひ昏瞶して更小の所とまき法の蚊抗の雨と致
 るま塵埃の風小吹く如く多日の企畫條とありて只管惡口罵罵するもの。中間重連とれと
 判一雜式とてことと逐るむと小於て遙と書と據ひ杖と曳て来る信儀の家とことと
 退けがのちのちと思ひつ。法寺の檀紙を若男女とる力あり退たり。當下言祖聲とあり
 衆信と呼番め法門の通せざるの黒業の習果あり。至心懺悔ある定業もまき轉び衆
 を懺悔と知るや信をまき人の面歎心なり。まきかへ目蓮小飯せよ奈何とて呼あこれ小因
 て悲と忘と降る者も少るまき黒心の信の見濁し信しよく好心骨髓小入るよの時言祖
 豪氣雄度実小本地言遠あるまきこの成五儀と見疑。快各引返さる重連のまき長揖
 老てらと去らんくの時言祖暫く待り子速小後念小性け。まき縁と食りの職と忽

小治政を以て我孫之副元帥と屋孫むと納らまはば法務の罪らふ後一某師經ふり
 如く自界致送難能る期日遠くは二月多くと定て重連半信せし師の教示ふは
 縁倉靜温也君小叛の逆賊を幸然とてひんと微笑く退さけり然るは二月十一
 日六波羅より北條時輔致逆を乞ふ。執權時宗大御孫は北條義宗とて是夜
 多あ天下大御孫授せり。因て二月十八日後念より急を告ぐ中重連愕然とて事
 祖の希小臻り合掌禮拜多し所い寔未萌と知大神通力已爲不明みその符疑
 ひつる今更後悔慚愧ふはた既小後念如此とあり因て想ふ小蒙右賊の至らんと
 ひあくだ。まご念傳云同答。まご念傳ひあくだ。と大畏まて述けまはる祖意を
 多て宣つ。我微もまご持經者如來の使ありのの幸々をまご知まごん林天神
 釋左右侍。日月星辰前後と照。天照八幡低頭恭敬を故小の日蓮は日本
 柱也。後日本國の魂あり。然ると人とまご怨む他必侵逼致まご遠くと夫より書二
 策と著るまごを願て西月鈔といふ

本化別頭佛祖統記といふ。高祖著書二策曰柱倒則家類魂去則人
 斃日蓮者日本國柱也日蓮者日本國魂也日本國存亡係于日蓮一人
 天照八幡雖尊而比于梵天帝釋是小神日蓮不支特之日本國須臾不
 得保持然人不知之悲夫今非可默止於是乎書書成示門弟子顏云関
 目鈔是書也別頭之心髓末法之骨目佐渡已後久久稀疎之本懷者也實
 本化菩薩所造乎哉予黨之子不用咨稟卒爾拜之必感現罰乎慎諸
 と云入る

按るは北條時輔が乱嫡庶の先後より起る。去る康元元十一月北條時輔
 辭せんとい然るは二子ありて長と時輔といひ次と正寿といふ時輔素より盜り
 父の心小契いざらば執政と異方の意あり時小正寿僅小六歳との重任と
 周て重内の子長時とて且く假小執政とありその死ハ内小菟表以正寿明年元
 服之平時宗と稱り。平時宗は後文永元年小あり長時卒す小及び時宗執政とあり



其の傳記を讀むに國中の佛宇悉く頽廢。國中の僧侶凡厥小及さん。是ト云は成徳後
 せん。然れども後果さばかの印性房を伴ふ唯阿彌陀佛宗の佛生喻房を觀
 房。是道房を斜背して書と違ひて持し。後念小到りて辨ふ。後念の奉り是と記之
 目蓮の不測の佛有り。故舊俤り祀之。是と云は。飯頃の若とて。深く是と云は。穢む。と云は
 事ト云は。不共。不共。用て。悦び。學小。飯り。是と云は。後念の狀と云は。近友。及子。と禁。猶。其の。除。言。律。小
 歸。是。若。或。以。捕。或。以。放。之。國中。大。不。獲。授。是。時。向。重。連。向。小。時。輔。が。私。小。上
 後念小在ける。擇畢つて歸る。是と云は。大。不。獲。授。以下。の。佛。と。論。且。其。の。邪
 僻と穢めたる中。稍。積。あり。是。近。友。依。重。が。事。佛。と。あり。一。位。阿。彌。梨。と。あり。眞。云。宗。と。云
 ける。が。後。と。更。て。云。祖。小。侍。之。名。と。學。兼。房。日。靜。と。揚。ふ。若。件。の。老。松。小。言。祖。與。歎。の。是。凡
 けさ。是。の。松。樹。悅。む。色。あり。綠。暴。小。及。と。増。は。後。の。所。小。寺。と。違。り。松。榮。山。實。相。寺
 と。あり。この。松。と。呼。び。加。智。波。松。と。い。ふ。ま。その。根。有。名。と。呼。び。靈。松。泉。と。名。り。斯。く。執。權。時
 宗。の。自。界。叛。逆。難。の。あり。と。り。と。云。祖。の。凡。る。と。云。信。地。牢。小。あり。弟子。と。救。は。其。け。れ

日朝と評さる。日朝深く是と云は。悲。歎。之。歎。之。官。小。法。ひ。一。び。所。と。記。小。於。之。再。以。是。つて
 土牢小處せん。と。官。情。是。と。云。日朝と。救。は。日朝。大。小。喜。び。て。暴。小。犯。り。越。小。到。り。然。る。小
 相。傍。の。港。小。著。し。小。風。波。法。と。り。と。小。洋。留。是。于。時。天。右。宗。の。英。傑。と。云。え。一。大。圓。院。因
 梨。此。処。小。在。て。法。華。を。講。久。と。云。日朝。性。徳。因。是。大。圓。日朝。有。と。あり。是。て。別。頭。の。號。と
 之。小。大。不。感。悟。是。と。云。あり。故。小。日朝。と。同。恥。し。依。波。小。涉。之。云。祖。小。獨。以。後。日朝。の。門。下
 日傳と云は。い。は。る。

按る小是より。皆阿佛房。傳。系。と。記。の。條。佛。祖。統。記。小。載。り。是。日朝。官。小。是。之。官。省。食
 廿。八。之。言。祖。小。侍。是。阿。佛。房。と。云。と。り。て。深。く。孝。志。と。感。人。室。の。時。と。伺。ひ。史。澤。傳。於
 續。と。り。り。本。文。と。同。り。か。ま。た。是。の。統。記。傳。に。の。終。在。當。時。日朝。の。地。牢。小。あり
 日條。賴。基。と。祖。と。記。ん。と。蛙。步。と。云。と。云。と。未。り。多。日。拜。教。と。記。と。錫。と。云。と。小。阿。佛。房。率。諸。賢
 と。違。り。云。祖。の。筆。と。旁。と。中。若。と。崇。む。祖。書。と。違。て。是。不。共。へ。人。其。の。書。小。い。と。く。未。法。小
 入。て。賢。女。男。女。の。差。別。あり。南。無。妙。法。蓮。華。經。と。當。小。且。は。是。を。所。實。塔。と。云。と。其。の。身。即。是。賢

如來なり。法華經の外不宝塔は法華經の題目即宝塔を塔は法華經の阿佛房の一層
 地水火風空の五大あり。この五大の別は題目の五字あり。然れば阿佛房の則宝塔を塔即
 阿佛房に今自多宝塔と供養する。即その方を供養する。此の二佛の本号をいふ。阿
 佛房と頂を初著事し共におまを拜し然るに後一層の塔系よりその塔遠きこと一層を著す
 の昔にあり。因てそのまを居て徒。自ら祖を祀ひ奉る。この化れより人々を慕ひ後り後
 りのまよりけしむ。後修不一村ともいふ。阿佛村といふ。阿天台の傍最蓮房といふ
 のの飛ぶつて依出満せ。是より三月朔日。祖を満居を宿て宿に祖着る。凡
 僧もいと別頭の説と因せ。不最蓮厚く。是と信し。在家を捨て所資の盟約を因て
 名を日栄と賜ふ。日栄。かくして八月日栄の乃不假不戒壇を攝。靈山淨土の主釋迦牟尼佛
 と和尙とあり。七宝塔中。空淨世界の主寶寶也。末と光明師とも。本地涌出上行菩薩。法
 授師とも。嚴小か門の妙戒を説く。日栄受戒灌頂。得戒の式了。祖より祖に
 少ひ我梵天事釋ふ。今て汝が歸と候え。我より教をのり及む。子も早く還らん。至信

そ是勅めよ。やと教ふ。後果を教と海甲及び下山不假。七宝省念ら。その地美を。後
 不宗と改めく。長栄山。不困寺と号せり。

第二十五 高祖佐別不在所と名判と遺さる事

月年四月二十日。後念の法子份と遺して。恭く高祖の起居を同以奉る。祖の以ひ書と
 遺り。の份不供て返す。その書條長け。まをいふ。後五月五日。幸便と得て。富木堂
 忍不書と條り。のその書相問答不作る。その果不のそ。佛法といひ。唯法華宗あり。のそ
 言宗は天台あり。因元の始り。普賢之義。金剛智三藏。不空三藏。天台已證。念三千。竊
 此大日經の中。不入して。私小宗號とす。華嚴宗も。天台不を。唐の則天台。皇居の
 觀音天台の十乘觀法と採り。取て。私小宗號とす。法相之偏の二宗。不あり。まよりこれと極す。
 是ら。以禪宗の達磨大師。楞伽經。不より。私小宗號とす。その性大慢。慢と樹て。ことを教外
 別傳と稱す。私を私。の不。経天魔の所為あり。淨土宗の善導大師。坐禪。及。私。私。私。
 証といへ。一向專修の義とす。不。日本の法。然るに。候つて。こと。不。供。一。邪教を弘む。ことを。私。私。私。

日蓮の遺教を尋ねて云々若し比丘壇法の者として之を責むれば當小劫の下は
 人の佛法の中の怨有り。章安釋といふ佛法と壞れすと云ふ佛法の中の怨有り。其の怨有り。即ち
 之を破る。然るに破るは悪と除く。即ち是を善とす。是を由て之を破る。日蓮の遺教に
 父も親も師も。容受するが過ぎ。大過當り。法を對しては過當あり。傳教大
 師といふ天台法華の法宗小指れ。所依の經小據りの故。小自多誤り。他と毀らば。庶幾
 有智の君子經を尋て宗と定めよと云ふ。是は他經の位の菩薩の法華經の名宗。即ち及
 在。此の時客も法を以て。然らば。爾の天昌。其化を守護せざるや。と答へて。日蓮猶
 せざる。教を釋言。衣と以て。之を此と愛ひ。刑小愆ん。天帝釋とて。衛護之。是らば
 日蓮事。事。事。福。之。所。有。之。云。云。其。の。状。常。忍。許。不。違。を。常。忍。大。小。歡。喜。多。以。之。當
 本。小。妻。信。と。發。主。小。告。信。及。不。波。り。言。祖。が。滴。居。と。訊。ら。ひ。ぬ。言。祖。と。奇。之。と。持。人
 の。此。之。千。里。の。遠。と。海。山。と。凌。ぎ。て。小。未。る。其。の。志。涉。々。人。と。戒。と。授。て。日。妙。尼。と。名。く。之。日
 朝。の。官。邊。に。淹。留。せ。る。と。許。さ。ば。故。不。釋。之。後。念。小。淨。の。辨。因。梨。日。胎。の。一。家。と。保。ち。言。祖。終

運の時と護つ。小奴能まの。常小陪從。その所の交代を。後小の。

按。小。注。畫。淺。小。依。波。公。日。向。伯。香。公。日。興。佐。公。下。向。以。將。小。念。佛。者。印。性
 房。あ。る。祖。宣。ふ。愛。房。又。伯。の。弟。多。の。渠。と。是。と。ある。汝。若。二。人。旅。の。安。内。に。被。小
 也。試。む。と。兩。僧。送。て。彼。処。不。到。る。小。印。性。房。檀。越。と。集。會。を。洋。土。宗。持。義。裁。れ
 時。小。の。こ。と。兩。僧。入。之。義。種。の。為。來。と。す。と。り。印。性。者。何。方。の。僧。を。
 兩。僧。を。送。會。あり。印。性。も。向。小。強。會。あり。日。蓮。と。あり。と。今。實。痛。せ。と。
 此。傍。不。在。り。と。兩。僧。著。之。我。の。與。及。由。之。の。頂。誓。時。後。念。小。居。の。更。不。と。す。と。知。不。と
 印。性。を。移。て。被。僧。の。誅。陀。那。世。の。悲。願。小。迷。へ。大。罪。人。也。提。婆。聖。佛。利。の。房。を。
 之。の。の。之。兩。僧。の。い。く。世。の。之。の。惡。義。あり。頓。性。を。美。と。と。何。責。せ。と。印。性。を。入。
 せ。何。せ。ん。惡。義。と。興。ま。の。被。分。罪。あり。兩。僧。は。之。河。と。笑。ひ。ま。日。蓮。の。惡。義。を。
 此。房。の。佛。法。中。怨。の。過。と。免。ま。る。所。鼻。の。大。苦。と。折。く。と。人。を。以。て。印。性。房。を。之。
 之。房。也。日。蓮。を。信。ず。と。與。小。小。是。ら。ば。内。小。入。ら。と。呼。止。め。せ。れ。と。所。小

末より故の口房権実の二故小迷の邪入熾盛の由と嘆笑共解りて一石の法門我示
逆縁を結ぶめんて欲しと有り師直小迷ふ故小衆人を迷えりといふ不後のおも
あられ今も存心あり非と捨正小帰せんとも我師聖人の許小未まといひ放つて帰せり
との遺恨小有り印性房の見る種那百餘人守護所小出て辨別と有り依てをねて同答あり
然る小乘菩提法の過至極承伏すた小印性分より種那菩薩座席と追まらんと見え
上の條據亦の同答より後多と有りてと何とを以て承て下。菩薩祖統紀及び其
餘の書亦の同答といひて日月の興の未まといひ紀年録小も粗り
又月書小の同答の後二月日と隔て法修の一人の尼種衆小雜まらる席を造と
同じていく。先頃法華經二卷小於て其の字句と宜ふと稍論せんとも以て祖
との尼と懇と人ひこまは先月印性房が同答小讀ると扱人爲承りしものと承る
ことと例せ共昔附天竺摩揭陀山の摩水宿波外道王宮の講場小ありて南印度此聖
那末底 薩婆小對して是と問はぬ人承て智囊へ捷く對ふとこと得ばと

辭々その場と有りといひと辭小んことと劬ひん。六月小未り血と飲て死まその後
とさう小及びその妻と呼てはる方ありて恥と忘りてあれと已りて摩水宿波死す
妻遺つて妻と奪せし鮮綺と著して論今小未る。佛慧者て呼摩水宿波死す。その
妻我と論せんと欲ふのここと王徳之河や何とてその死と多し類ふことと古よと徳
慧ののその妻未る小面小死喪の之ありて云小哀怨の愛と合あり。ことりてことと
細ると王命をて伴と違ひ。叙せむも果をて然り。王の死と願て佛法の玄妙有り
宿意と果さんとて未る速小悪と擬へ徑王小飯ま下と則被云云ありて云ると汝も是
小通と宜ふとて被尼愧とすまと言ふて云り。疎衆の中小ありてありて印性
梵嫂との人の祖未るより多りありて時小疎と志す宜小奇事ありてと云をり
又按る小紀年録小亦文富木良小妻のより條余小痛歸あり。五月鬼と撰るを未る
こと小月めの名と賜ふといひ又後余の二位女その妻小托て之祖と問ふと祖これ小書
揚るふとて云えり。衆僧を祖と然らんと言ふと違ひて後余小亦奉承因て日蓮の必

過まらざるに但渠小祝附る者止ありとある條との紀年録小その力に主朝連法皇
小若く日蓮密小王家と死組まると因に朝連の故小命と誓く被小祝むりとの
禁法まら掃依の法と捕を罰ひるる折依の守護の本回重連ありて然る者祝小
願ふら。朝連まら。明王と主朝連のいまま。故を且その餘の時の傳記持て異
説あり。逸と小辨法皇と主誓く者小願りけまら。そのむけまら参考せり
明王の父永干癸固る祖五十二あるせりとの春法子日向とて房又法皇に到らる年
南の夢と述て所道若房が死居の要否と問ある人五月二十日法皇の義津房より
送るる祖まら。附の目とまら示してそく壽量品の偈小いそく一心欲入併不自惜能
命と日蓮が己心の併果祝小る二有小園て成就せり。その故奈何とあるまら法事りの
一念二千二天秘法と名之天台傳教附屬小ありまら。法とまら。或ひり一日
二聖心果法淨と名ひ或ひり一の道清淨心の法法まら。今想小必然らまら。日蓮事
親と成るとまら。一の妙之心と名之法之欲と名蓮まら。今華之併と名之故小法蓮

華經と弘宣せんと欲する者自ら命と惜まら。自ら命と惜まら。一心不佛と
えんと欲ひまら。本有云作の三月佛果一時小顯現して。身土色心俱體俱用當於蓮華
佛あり。忍ら。天台傳教小起え。新樹迦葉小猶るりのことまら。まら。後如說修行
書と製して。門小示し。その書の略小く生とまら。法小受け。その經と信まら。或ひり類の
教むらんと必せり。如未現在まら。從怨嫉まら。況や滅度後の今小於と。或人問小統の
かく修らるせ。現世安穩まら。怨嫉のまら。何と。釋言小九種の大疑あり。不輕
小杖木瓦石あり。天台小南三北七あり。傳教小六宗七寺あり。殊小今の關神堅固白法隱沒此
時小。惡王惡臣惡民邪鬼隈小入七雜事と起る。その時小。應つて日蓮佛勅と蒙り。まら
是小示し。時の不祥小遇と名之。法王の宣旨豎と名。經文小住せ。以て權實二教の軍と起し。
忍辱精進の權と著妙法の教と掲げ。願目の旗と揚げ。未顯眞實のまら。張り。二懸於權
の箭と排。大白牛車小乘と推し。門と破却。八宗九宗の賊卒。或ひり。逃或ひり。引。或ひり。捕
まら。或ひり。降。於戲天下法王の家人とありて。法乘一併乘と顯り。只妙法の天寶位自茲

巨鎮一弟人二月妙法蓮華經と唱ふふむの目いその内周枝と勅まて兩懷と碎ぐん不
祥と排ひ長生を得ん不老不死の理顯然せんゆゑ人となはと法と清淨なり現世安振る
去る或人復同ふ同會の後法乘一佛乘ふん衆經と法華經ありさうふ深法修習
べらばと予がいたく然らざる凡そ佛法修習の佛説ふ憑て人所の教と用うさるん法華經の
序分ふいそく四十餘年未顯眞實大莊嚴等の八萬の丈士領解とつて法華已希の法經
の終ふ云上菩提とあるさうん宗ふいそく佛の方便説と除さるん方便と捨て乃至餘經の
一偈と受てとま如來の遺徳ありと然るん今の學者除經と法華經と同一のんとある如來
滅ゆてん此人の罪報汝今復徳けその人命終て阿鼻獄ふんぞとこれと心とあり或人そ
同ふ安樂の品い奈の答へいそく佛法のゆ人の時とあると要とある若時と識さるん法
徳あるん授受の時と折伏の時とあり安樂行品の授受の時と今の所謂折伏の時と天台の
法華折伏破權門理とをの理良ふ以あるさう夏葛と著冬氷と著其時小順ふる者夏
ハ氷と著冬葛布と著さうん時不著冬氷理ふん關障堅固積實雜礼るゆ不著冬

法華の行者り山林小抖擻して法宗の佛法と改めんん士不七経起り民不七逆あり清淨の
眞土忽地變て高生道とあり像鬼道とあり阿鼻獄とあり是を以て我を折法王
在世八年折伏小從事以天台二十年傳教二十年今や日蓮二十年さ小從事さるん我堂
の小子或いはその標と失るん或は其前と失るん二類の故と云ての虎狼と云るん夫れ何
ぞや先陰人と侍に命然干た迄て以て若く二類今日富貴不窮ると一自斷ふん及
んぞの垂小阿鼻坑小隔らん我侪朝昏毀辱不遁ると寂光本土不自受法樂せん努力
めて恐るること復退くとさるん欲求せん首と兼とも身と共一念不勤南云妙法蓮
華經と唱ふべ南云妙法蓮華經と唱ふ身經るといひ釋迦多寶十方の法佛須臾不
来り兩肩不負ひ二聖二天十羅刹女益と持け靈山寶刹小送らるん豈疑ひあるん
と云ん所の摩頭佛未記と割裂るんその書大概小通く釋長くして看者の徒人然
まてこそと省く情志あるん本書不就ん索むべかて七月八日小別付事觀十夜初
信本堂と圖りあるんま本化大曼荼羅の積集あり副書ふいそく佛滅後後二千二百二十



日朗故牒と
 捧げ
 高祖の猶居小
 到休



解年の間一箇海提の内未嘗有の大慶茶罷ありと云云

按る小佛祖統紀小申陽の波本井氏実長伴と云て安否と候ふ書中懺悔の子と傳ふ
八月二日ま祖登とてと書と示しあつてあつて然る小紀年録小南郊氏書と皇行
者た小羅と最回八日二月書と揚公感ひを解く九月十九日書と作りて月昭の身
よりその信力と熱誠ありて最蓮小徳能義と著り示しあつて統紀より不と異なり

第二十六 蒙古賊襲来の大畧并日朗赦牒と持佐渡と事

明皇の承平十年甲戌年祖五十二ある世あつて時小日興来りて奉侍たかへ正月十日行
者難小徳縁故と死し人々示しあつてかへて二月二十二日雨の日並び出て都邸の貴族と
驚きとてはげしう天を怒りと大不怪と安んじ居りし二月五日復明皇並ひ出たりと小紀
天文博士の吉田と問せま。ま。諸寺法山の僧小深て祈禱さす小意ら以てあつて去
文承平十年大元蒙古の使領良弼九日来る。その返進ありけし。時宗筑紫の佐伯とて
是と太宰府より返せり。然るに復来りて遠くあつてと深く怖は

按る小中朝通紀續資治通鑑と引く。元趙良弼使日本到太宰府而還具

以日本君臣爵號州郡名數風俗土上而後年元王舉兵擊本朝數回以是

想之托勝使使趙良弼窺計地形風俗明矣宜哉使元使不入我州矣と云

又按る小今年ま冬十月元人忻都と云者といふ。二万六千餘人小わく。まて對馬の

小と趙ふ九日の兵防と戦ふ元人利未兵敗績して歸るといふ。とまより二年と終て建

治二年九月元の使者長谷川空の津の浦不到至屯小実来りたり。時宗書に候

を。とまを捕へて首を刎断の口を承取るといふ。史よりま二年と終て弘安二年春二月

元の使杜世忠孫念不到の処時宗不許と憤り。とまを殺す。通紀より云へり。最

元人我邦と誓ひ九日小寇と云。脱小西三回ありて終小大軍と率て来り。まて母

統書小ありの。あつて彼が史小載とて北條九代記と始と。蒙古給河内傳堂埜抄

或ひの國史界が朝通紀その條帝王歷代年表ま。作同年代記等小。その事蹟は

善ひありて作佛執う初まらば

お小後余の執権平の時宗或夜の夏小赤衣の重み忽然と現はる何ぞ日蓮と教さる。
 と二つに斗り告ると言ええ眠室の夏の前より。そ夜まゝ頼徳もまき衣の重み現はるまじ。
 備聖者と侮ると言われ。とまきまゝ三回をうり咬とせりて。その夏の前より。佛も不測のて
 るみと心撲後とて辨トがく。翌朝執権の飯小赤衣の時宗小對し如世とてまき聖者と
 推さるん更小心小分ごうの。時宗咬つて。愛小赤衣の重み脱小赤衣日蓮と教
 せしり。お小彼僧形唱ふ我の如木の使くとを言の自界叛逆難彼が未だおひり
 お赤衣。然とて凡僧おあごる。然とて僧人と宿めんとて久く邊境小罷んとし佛
 陀の眞慮おまふと言ふ。若ト頓く教さんゆ。と心中半恐怖と懐く頼徳ゆま。月心
 せり。然る小言祖と信る族との張とて飲び居る一天下の政道と執り。邪と退けいと進
 めふ家と云ふおまの覆るすの。任小あつて日蓮とて。愛僧一人と罰するとも何の妨あぶら
 殊小睡中の妄想と信ト隈小是を教しもの政道とまう崩さるんと言ひまゝくいふ老あれど

時宗頼徳とて極に竟小教免あべとの上。有日小達一ありけま。まう土牢ある日朝と
 教。日二月十四日。教牒と日朝小授けら。日蓮小達を平とあり。日朝小喜びてその教牒
 と襟小懸け。即日後余と出ま。夜と日小継をとりけま。従来その路とて。日朝とて
 二月小宿。陰祖のいひは。是小仕とて。性といはれ。この教日。牢中。小憔悴とて。心さうり。男
 中。脚まうとて。歩難く。ぬくゆ。二月八日。依波の至。波りなる。今の心神。小赤衣と
 一夏。遺とがく。殊小日暮。て東西と分。は。然れども。先達とて。おま。り。と。お。ま。は。は。は。
 次。心小骨と。あり。この。山の。籠と。巡り。所。の。橋。居。の。二。里。許。り。い。は。心。と。勉。め。を。ぬ。く。一。刻。中。早
 至らんと。ま。処。あり。り。る。樹。の。枝。と。拾。ひ。て。ま。ま。を。杖。と。し。痛。める。是。と。ぬ。く。皮。と。ぬ。く。と。登。る。と
 教。所。あり。て。渾。身。今。の。困。勞。の。傍。る。石。小。據。て。妻。時。勞。ま。と。甜。心。ける。が。喉。を。潤。ま。て。と。水。も
 多く。飢。と。渴。と。ま。ま。腹。も。あ。は。い。と。青。若。滑。水。を。夜。陰。お。及。び。濕。氣。小。耗。ま。ま。と。不。し。く。ま。お
 死。向。と。て。日。朝。心。小。想。ふ。や。う。我。と。あ。ん。終。り。と。執。ら。れ。誰。う。の。教。牒。を。所。小。捧。げ。今。任。三
 置。ふ。と。その。志。と。果。し。ぬ。ま。勝。と。て。法。華。の。必。者。の。徳。天。長。神。加。護。め。と。然。る。小。教。の。

あま 遺ふ前世の宿業を自ら観念してまき想ふやう。志の貫く所金石の徹。
虎とく石とく夫の和あるあり。まづ我とみ呼びてんを。日朗救牒とびくとみ来れ。
雅うこそと途へんと愛と限をみ呼する。漸く十發をりみと咽勞れ愛暖らるる。
まともその信心諸佛の威應ありらるる。嬌とて終るる。樓のぬくみ。既小彌居小達
しり。言祖香小徳もひ潜然とて宣ふやう。今逢ふはゆらひ。日朗が愛と名し集
が我小存あると実小心所と初うは小徳ぬ。今日我自頭烏とん。禪あつて来さるる
らん疾信の導へせよ。宣ふ小同く伯耆公日興遠に炬火とらう。照し端と弛せ出て故
下と一里降り。然れどもその教とんば。祖も尋て出ゆと。闇夜小く人ありてゆる
日興試と小存と揚て日朗来さるやと呼ぶと教回そのまき。此方小通下。結と日朗大
小喜ひ日朗と小在ると對ふその愛救遍ふて互小通下。日興漸くこ小来り。仔細と安
歡喜小徳を日朗がとて與て幸うと。滴居小到る。かくて日朗襟小かける。救牒其如
きて奉る。言祖点改て披さるん小

日蓮法師の勅 氣平 亦名 新二名 許一也

文永十一年二月十四日

新兼
清長
氣平
光經

友左衛門入道殿

あま 書まはるる。系於中。本寺の什物とある。外小武藏守の状あり。そのまはるる。
昨は。その書の中。園寺什物の靈寶とあり

言祖とまて入のひて日朗が艱苦と勞り。長途の旅ゆと謝しあり。
附のりとの目白頭烏とんあり。近き小救免あるん。相推量りあると折
まの縁故のむじ漢土燕の大家。秦小能買とて在る。是始富た子丹小のひとて
汝必飯せ。言祖馬小角と生ひ鳥の改白く。愛せ。其時とて飯す。伊れ。とま。小於ん

大子丹神明佛煙と祈りて天と皇と威應ありて自願の鳥始宮のち小舟に
燕の太子丹と還さるる故半小舟と名付行基法師紀傳云云川の
畔小舟と名付自願の鳥と鳥と名付山鳥願の鳥と名付多歸と名付
らんと諺りしる故半より死す

かくく言祖の翌九日。ことと國中の徳権賊小舟の中興阿佛と名付
て宴と設け言祖を智く奉つ。然るに國內開托の輩僧と名付俗と名付
大舟討り。あよそこの島小販捕せしむる者古来より救と得る者
法敵と名付と輒く救免と蒙る天下と皇と救すとも吾們奉り救さん
うんの内と縁縁と金と多祖不冠せんとあけしとも。这天若神の守護小舟の
あんず小恙る。殊小威権獅子王の如く。恭然と名付開托宮更小舟と勅し。
小止小舟。快言祖の月十二日。檀越小別と名付。告ぐる。その
るへの悲と名付と落涙初め別離の情小舟の中。最蓮房の殊ま。救き。奉ま

切あると名付。世榮が手と執の心と慘多む。こと勿れ我大扶帝釋小令。と名付。
軸の教と名付。但再會と期する。こと十四日。網浦小恙る。ひ翌日。船小乗。大洋と波り。
十六日の朝。賊後の玉拍誘小恙る。

附て。八日。朗師が誠心。世不辱ひきたと秘り。かの行步。縁維の所と。後人。日朗師と名付。
石小據て。懇ひ。と名付。ことと。教免。石と名付。今尚。彼地。不存。在。せり。と名付。信念と名付。
と名付。朗師。本先寺と名付。年録。不依。波。祀。と名付。引。て。い。そ。永。祿。年。申。洛。の。中。化
宗者。官。命。小。托。と名付。石。と名付。洛。の。中。園。寺。小。移。さん。と名付。凡。人。輿。と名付。以。て。昇。き。と名付。龍。川
小。到。り。船。小。乗。ん。と名付。石。膏。の。ど。の。出。せ。重。う。と名付。載。べ。う。と名付。不。於。之。止。ま。る。邑。主
と名付。安。後。山。小。移。と名付。其。と名付。遠。り。と名付。意。と名付。云。云。

第二十七 高祖歸路の教化英若狭の局が具と徳めり奉事

賊後。玉拍誘。八月。國。北方。の。海。濱。也。性。官。依。及。入。海。なる。の。事。此。處。より。船。小。乗。り。航
小。承。久。の。亂。順。徳。院。依。後。遷。と名付。其。の。時。子。海。濱。小。舟。幸。あり。五十。箇。其。の。家。と。行。在。す。

日蓮上人一代圖會卷之四 〇九九

今程その殿と存。注連繩と張て人と入る。何時の頃か官吏と小宿。何ぞは古
 の工を遊んやとその殿小入りて川を深夜及び長押と被り。別室へ抛らる。因て人々
 怖すとい供も言祖。吾小著の泉甘と入新小憩。後人寺と遠くを後泉と名く小
 門新下宿小あり。二十番神と勸請。後人寺と造り。とを呼七妙行もといかて
 府中。小宿。小川ありて石真あり。言祖その石と捨ひとり。石一字陀羅尼品と書す
 日朗日興。後老石と捨ひとり。と洗ふ。その地妙法の因小。後年多く人集り。殿小富城
 致以とを故小と陀羅尼所とす。かる処小符あり。忽然と来り。言祖小揖。曾人日朗日
 興。曾人所の袂包と信て自ら負ひ導と。傍多る寺小入。言祖所才と書小法。其
 寺小入。小老翁の行方と失入。故小庫裡の意。西と。と。同小。初りのあり。寺を大
 怪めり。その寺の美言宗。田比沙門。天皇と崇めり。古た像あり。威靈あり。言祖寺を
 延て。び拜と。宝殿小到りの小。かの失る。袂包と。毘沙門。天皇の肩小ありて。その是。小。湯。去
 塗ま。容。貌。件。の。小。符。小。似。と。言。供。と。言。祖。と。憩。り。め。と。自。之。近。之。人。と。儀。を。見。る。者。

奇異の事いとはす。紀年傳あり。その寺主の阿闍梨の始め。言祖の名と。く。毎。小。ま。ご。禱。と。思
 ひ。か。この奇異をい。て。あ。り。く。小。及。ぶ。と。言。と。形。悟。り。過。を。悔。て。言。祖。と。信。と。被。け。後
 味と濁。と。と。供。養。奉。ま。の。後。行。淹。雷。あ。つ。て。教。化。の。あ。ん。と。を。け。ま。と。と。小。遠。心。と
 小。あ。と。ま。ま。の。祖。禱。と。と。不。根。を。大。學。茶。羅。と。圖。と。共。へ。日。朗。日。興。由。ま。の。學。茶
 羅。と。圖。と。後。の。證。小。と。と。止。む。の。寺。宗。と。改。め。り。祇。後。高。田。の。府。主。祥。山。日。朗。寺。と
 とい。是。あり。か。て。後。の。多。聞。天。の。像。圖。主。上。杉。氏。の。城。内。小。殿。と。築。て。安。善。の。崇。敬
 他。小。異。あり。か。羽。及。米。澤。小。徒。小。及。び。ま。其。処。小。日。朗。寺。を。遠。つ。故。小。言。祖。米。澤。二。卒
 の。日。朗。寺。あり。と。ま。夫。より。武。見。五。郡。小。到。り。と。小。武。秀。の。見。堂。あ。つ。て。久。米。氏。改。と。小
 者。あり。後。て。言。祖。の。美。名。と。慕。ひ。一。回。相。見。せ。ん。と。欲。さ。る。小。縁。あ。り。て。年。月。を。過。せ。り。終。に
 来。り。あ。つ。て。武。大。小。喜。び。て。出。迎。へ。と。枉。多。の。ん。と。言。祖。小。志。と。感。下。久。米。氏。が。宅。小
 到。り。と。小。一。宿。あり。小。懇。小。佛。堂。と。示。さ。る。信。政。頭。小。信。を。死。し。宅。を。収。て。寺。と。な。り。今。の
 八。幡。山。武。蓮。寺。と。是。あり。と。信。解。小。より。て。子。孫。繁。盛。し。今。も。行。連。綿。と。言。祖。の。成。出



越後高田の
昆沙門天王
高祖と二子と
寺小導



若狭の弓池に
蛇加ふ
現す龍事
物語

のハ新曾村小到りてあふ一人路の傍小拜伏し。涙と流して哀憐を乞ふ。月興よりてその
 故と問ふ。僕ハ彼如の農夫なり。然る小妻女姪産小罹り。悩むと救目あはてなく。今
 絶るんと因て醫師のり小及む。有後と言偈小祈禱を以て百針多と錫以てり。行
 其の後。あつて見ゆま。胎中小在り。初痛を致す所の功力を以て。とまを授けり。す
 け。世との鶴恩之と首と地小甚て悲心と歎く。言祖とまを授けり。路傍の標小授け
 かけ。曼茶羅を圍て其へ。曼茶羅を以て頂き捧げ。帰ると妻小頂く名む。小須臾あま
 産安く。後母子も小安泰。二人の徳人その徳と貴び。後と地小妙願寺と送り。か曼
 茶羅を以て小寄さる。信小子女の曼茶羅と授ふ。是より色の産婦あり。毎小の
 曼茶羅を祈念する小曾て一人過り。是よりまの二村と過り。あつて産婦の胎あり
 あり。その良人と家氏との小言祖小んて授けり。言祖とまを授けり。路傍の標小授け
 ち。小紙中び小言祖小んて授けり。新小の且澤。言祖とまを授けり。裏小曼茶羅と
 圖のハ其へ。小開氏悦び拜り。とまを頂く名む。小悩丸地収まり。頼小女産する。とま

得る。彼小希有の夢の瑞あり。その家奉て依伏し。悉く在道宗と捨。多妙法を唱。けり。
 其の法かの及。此小靈應あり。と妻あて式ひの時。氣の不。小觸て天行病とあり。時小に
 集命その乳と首小頂く。とまを脱う。とまを脱る。病小罹り。去も頂く。とまを脱る。
 熱。身。全快する。と不測る。まが衆人言。信せざる。然れど。時小あり。汚穢不淨。小觸は
 ても。この罰もま。著る。と小於て。開氏。怖ま。とて。佛。小命。ト。新。小言。祖。の。係。と。送
 り。その胸中。小藏あり。とまを祈る。小益。良。應。あり。か。て。開。氏。後。年。及。び。江。戶。中。小。寺。以
 て。送。り。善。性。寺。と。辨。一。の。像。と。崇。む。後。故。あり。て。月。所。る。威。應。寺。小。安。置。せ。り。然。る。小。元。禄
 年中。と。や。右。命。小。依。同。所。る。慈。雲。山。獨。輪。寺。小。移。す。今。程。と。小。奉。持。す。と。る。人。か。て
 二月二十六日。言祖。念。小。若。多。の。辯。園。梨。目。照。と。始。め。て。溜。素。と。て。出。途。へ。再。會。と。款。ぶ
 小。も。谷。渡。る。る。ぬ。る。か。て。諸。小。相。縁。り。夷。堂。の。地。と。假。一。宇。の。洋。堂。と。撰。辯。園。梨。目。主
 と。一。款。回。く。と。小。在。り。たり。その地。今。の。妙。嚴。山。本。号。寺。多。り。と。小。比。企。大。堂。と。郭。縁。と。言。祖。小。服。係
 ま。る。と。り。て。己。が。屋。敷。の。地。を。以。て。法。場。と。る。と。ん。と。る。と。る。小。の。地。を。東。地。子。と。出。以。因。て。送。回。地。と。小

だ。去一けん 布金の場。長興山妙本寺を建立す。能本支拂發と稱す。この側
小僧とて。祖との供養を受け。日月朝日山の式を習進し。阿耨羅菩提の樹を高迅三昧の
念二吼揚とて。四衆瞻仰の目替りも捨り。各款喜の眉をゆるぎ。齊く法門の歳を呼ぶ

附ての小本支拂發能本件の精舎を建立す。及び茅宅の地を捨り。至の券とて。
その地の租税年々小収むとて。一時小購ひ永代坊げらる。比む之を以て布金の場
との小折布金の場と云ふ。天竺舍衛小精舎を建立す。須達長者舍利
弗と共其地を擇り。慈心あり。玉の大王波斯匿王の命を以て。祇陀太子遊獵の地の幽棲
りて。比あはる。この地小精舎を建立す。祇陀太子小獲けり。太子悦とて。是を許さる。
須達長者持し。小功徳の貴さを説けり。太子も不得小釋とて。然らばかの地に布
満る黄金とて。汝小信人。とて。是の實の長者が富も及ぶ。す。止る。と想ふ。心
かくり。長者太子悦びて。家小帰を府庫と開く。大家七匹小黄金を負せ。かの祇陀
園小来り。是を布き。今頃小充滿。是の天小輝とて。地小映る。貴かりける。景勢あり。

太子熟とて。是を樂法の為小黄金と悦ま。我美處の地と喜まん。と勿地大信た
と紀。汝无救の黄金を以て。この園を買んとせ。その功徳莫大あり。然とて。我美為黄金小
換ん。箇の言の誠とて。速小の美金を以て。精舎とて。地へ建す。とて。長者首を
揮り。君の國の太子あり。假小も戲言とて。疾と收め。人との太子也。非も金と收め
校木とて。以て。精舎の料と。須達舍利弗小供ふ。とて。人園て。布金の場とて。小大学之
能本が善根。實小須達小亞のり。ある。とて。

あ。小於て。徳金及び諸小傍法の輩も。その威勢故が。この時小至り。とて。嗚と鳴と
止。て。閉塞す。ぬとて。祖巨徳自若とて。法門小宣ま。れり。とて。小大学之。能本が。新法
慈と。開と。祖と。信と。若按の。局の。眞後と。修と。昔年比。企の。候小。地あり。若按の。局と。小
没と。死と。妄念の。引と。所。深と。つて。蛇身小。感。時と。兩角空小。挿と。豈。隣日小。輝。死と
現。す。形と。候。と。人。と。あり。能本。屢と。と。と。祖の。法。力を。假。て。その。惡念と。翻。ぐ。人
と。と。祖。大。覺。茶。羅。と。國。修。法。ま。る。と。肅。と。り。この。法。終。て。その。形。と。見。ま。

まふ小の祖の懐念小よまを。佛果と濟する者あり。この大曼荼羅蓮の字の長書畫室小蛇の勢ひあり。故小蛇形の曼荼羅と括せり。後言祖涅槃の事とま小向つて坐しとま小故まことと括し。臨滅度時の大曼荼羅と以今控比企の藏中み存せり。

按る小佛祖統記自注小に。比企第六代日行上人の時。應永二十九年壬寅十月十日。二日。佐竹氏上總入道常元。冬。渡小用て渡小伏を賊山中。お過るのど。蛇形の曼荼羅飛入池入り。字字。猛蛇の姿と現し。賊と禦く小賊。尋る。こま退とまるとの。日行小対せしむ。蛇形の本言。今日復蛇形の威徳と揚まると云云。

あ小眞言宗の願。學心覚院主と小来り。言祖の宗義と結らんと。以法孫日澄。佛祖の作。こまと撰く。院主。大小屋。版。し。と撰とまると。宗と改め。寺と捨る。今の。大巧。これありとぞ。かく。副元帥北條時宗。情言祖が。追退とま。一。実小聖者の。神あると。賤。一日。懇小ことと。折く。折。去。も。四月。八日。あり。言祖。夙小興て。徒才と。徒。執。捨。の。飯。到り。の。小。家。幹。頼。能。如。近。へ。こ。ま。小。對。ま。ると。以。あ。小。後。り。勝。り。て。種。と。絹。且。手。と。又。と。賤。作。一。面。成。和。

ら。度。と。り。の。や。念。佛。會。同。等。の。法。門。の。その。義。殊。小。美。と。の。り。も。人。び。て。喜。び。む。今。より。ま。の。説。と。説。の。り。の。可。あ。る。ん。と。ま。義。と。枉。我。小。順。り。何。の。幸。ひ。と。ま。小。若。ん。以。門。の。あ。小。ま。り。新。小。愛。深。明。王。の。殿。と。構。へ。上。人。と。主。う。て。ま。家。の。護。理。と。請。ひ。社。同。干。明。と。壽。衣。盃。の。資。小。元。ん。と。以。上。人。且。く。受。用。あ。る。と。と。懇。懃。小。演。ふ。り。言。祖。と。ま。小。答。へ。て。い。と。く。念。佛。會。向。の。末。法。の。念。道。且。禪。の。魔。ある。伴。の。賊。ある。何。と。算。あ。小。足。り。の。あ。る。ん。殊。小。國。と。喪。し。此。と。亡。ま。り。と。ま。唯。眞。言。宗。あ。と。と。然。と。穢。失。の。方。と。あ。す。り。と。是。然。ら。る。乎。誤。ら。る。若。ま。家。の。福。田。と。祈。ら。ば。は。湯。の。美。と。和。り。て。稻。穀。さ。妙。法。小。販。ま。と。團。の。存。亡。の。ま。小。奉。あ。り。何。と。頼。の。ま。く。我。と。濟。ふ。と。こ。あ。る。ん。素。の。小。勝。り。ア。ガ。ク。る。り。ま。つ。と。祖。と。請。め。濟。す。と。今。日。蓮。う。結。め。と。空。言。の。家。古。賊。小。利。と。射。ら。ま。ん。と。目。と。針。へ。候。べ。と。あり。頼。能。は。て。蒙。古。賊。の。到。ら。ん。と。ま。是。何。時。ぞ。や。上。人。縁。も。あ。り。も。あ。と。と。祖。を。入。經。文。小。の。時。と。指。さ。す。以。眞。道。を。期。と。知。び。ら。ん。と。團。若。日。蓮。が。念。道。と。捨。て。私。運。と。請。む。運。り。頑。小。日。ト。と。あり。て。私。小。カ。多。ク。あ。り。因。て。天。の。怒。り。を。急。あ。り。と。い。の。年。と。怨。ま。る。國。の。為。道。の。為。已。と。得。ま。り。と。ま。嗟。日。蓮。が。た。色。法。の。賜。一。に。備。小。

れん。蓮。が。念。道。と。捨。て。私。運。と。請。む。運。り。頑。小。日。ト。と。あり。て。私。小。カ。多。ク。あ。り。因。て。天。の。怒。り。を。急。あ。り。と。い。の。年。と。怨。ま。る。國。の。為。道。の。為。已。と。得。ま。り。と。ま。嗟。日。蓮。が。た。色。法。の。賜。一。に。備。小。

任老心法の覚悟の有り以て私を定む。更にお侍も人たる者。齒と咬て對へる頼總
 父と語り。列坐の諸士も祖を垂練烈し。とて執権家幹。もお怒りて死さん。と
 肝と穿く振ふ汗も是と大諫。次の芽こころ。祖練めの容ら。とてお怒りて振
 さらし。時宗熟る祖の徳容。勇猛。とて感。い。実にお大丈夫ありのる。
 涅ま。とてお更にお縮ます。とて作けり。よく。とて。堅。とて。實にお
 つへ。間。の。聖者あり。自ら。お東の使と。執。とて。過言。お。とて。大にお
 衆。お。二類。の。故。拒。とて。可。い。副。元。仲。の。猛。威。とて。奈。何。とて。お。び。その。修。止
 おけり

按。お。紀。年。録。とて。同。日。朝。の。條。述。て。袂。色。と。負。とて。一人。の。小山。伏。とて。お。任。お。成
 すと。二。村。お。宿。一人。佐。其。其。種。祇。とて。お。とて。お。とて。

日蓮上人一代國會卷之四終

